

2008年10月15日

大阪損保革新懇結成10周年・第11回総会開会挨拶

代表世話人 野村英隆

みなさん今晚は。お忙しい中、大阪損保革新懇結成10周年・第11回総会にご出席いただきありがとうございます。今回も多くの仲間の参加のもと開会できることをお互いに喜び合いたいと思います。

結成以来すべての総会はこの会場でおこなってきましたが、とうとう今日、10周年を迎えました。この10年を振り返るとき、短かったようにも思えますし、本当にいろいろあったなとも思えます。

10年前の結成総会は、台風接近中の中で開催しました。仲間が集まるかどうかヤキモキしましたが、180名を超える仲間が集いました。初めての総会後の二次会も成功し、毎回の恒例イベントになりました。2年目に実現した品川講演は私たちに大きな力と自信をつけていただきました。ブックレット『どうする どうなる 損保の未来』は話題を呼びました。全国に7000部普及することができました。

ちょうどこの頃から金融ビッグバンがはじまり、富士・第一勧業・日本興銀の合併構想が発表されました。損保では第一火災の倒産という事態が起き、1999年末には三井海上・日本火災・興亜火災の合併構想が発表され、その後大型合併構想が続々発表されました。企業合併を前にして2001年・2002年にかけて労働組合の分裂問題がおきました。大阪損保革新懇に結集する仲間は分裂反対のために奮闘しましたが、日本火災支部・日産支部・日動外勤支部は分裂し、大成火災は再保険事業の失敗から企業が倒産してしまいました。これらは私たちにとっても痛手でしたが、これらを乗り越え、仲間を確保し、増やしながら年々の活動を積み重ねることができ、今日10周年を迎えました。

この後、みなさんで確認していただくアピールの2枚目にこの10年の主要な活動を振り返っています。毎回の総会では多彩な著名人お招きし、情勢に見合った話をしていただきました。2回のブックレットの刊行、2回のシンポジウムを成功させました。今年4月のシンポジウムは初めて共済の仲間と連帯し、損保と共済の社会的役割として国民生活とともに発展する産業であることを再確認しました。3回の広島平和ツアー、ゼミナール、憲法改悪反対署名、20回に及ぶ講演学習会の開催と成功、ホームページによる全国の仲間への情報発信活動も続けています。近く大阪損保革新懇ニュースも100号になります。この間、全国革新懇や大阪革新懇の総会や諸会議でも私たちの取り組みを報告することもできました。

10年前、損保革新懇は私たちが最初でしたが、現在全国の損保革新懇は7組織、損保9条の会も7組織、計14の連帯する仲間への発展も喜びたいと思います。この10年、みんなで積み重ねてきたさまざまな活動を確信し、誇りあいたいと思います。

今日から11年目、次の10年の1年目の闘いに入ります。情勢は大変緊迫し、激動しています。何が起きるかわからない毎日が続いています。

2年続けて自民党総理は政権を投げ出しました。新たに誕生した麻生総理は「臨時国会冒頭に解散する」と文春11月号に書きましたが、期待した内閣支持率は低く、就

任そうそうの大臣の失言・年金のゴマカシ・汚染米などのボロが続発、加えてアメリカ発金融危機の発生・株価の大幅下落という新たな深刻な問題も出て、経済対策が必要だとして総選挙を延期して、延命を図ろうとしています。多くの国民の期待は早期に解散、総選挙を行い、国民生活を基本にした政策への転換です。私たちも同じです。

損保では 1996 年の日米保険協議の結果、大型合併・再編が進み、今日の収入規模拡大・利益第一主義の競争が繰り広げられ、正規従業員の削減と雇用の多様化、代理店の大幅削減と手数料の引き下げ、外勤社員の制度と雇用に対する合理化攻撃も強まりました。

今回のアメリカの金融危機で、今日のわが国の損害保険産業の秩序をぶち壊し、混乱を持ち込んだ張本人である A I G が倒産の危機に陥り、巨額な国家救済を受けるといった事態が起きています。アメリカ型の新自由主義・市場原理主義が破綻したことを示しています。

9 年前、品川さんは『21 世紀の損害保険産業の新しい役割』の講演の中で「損害保険は本業に徹し、料率値下げ競争をやめ、代理店制度を守り、社員を大切にして、国民生活の安心ネットワーク産業であれ」と強調されましたが、あらためてこの指摘が正解であったことが明らかになっています。私たちはあらためて三つの座標軸を再確認して運動を進めていきたいとおもいます。

私たちはいま、「国民が主人公」の新しい政治経済路線への歴史的転換期の真っ只中に置かれています。『平和・民主主義・国民生活の向上』実現の革新三目標を掲げる革新懇運動がいよいよ真価を発揮する時代です。いいかえると、私たちの活動の真価が問われる時代に入っているとさえいえます。

今日の結成 10 周年・第 11 回総会に当たって、昨年はやばやと品川さんに講師をお願いしました。今日 5 回目の講演講師としてお迎えすることができました。

ご存知のとおり、品川さんは現在(財)国際開発センター会長、経済同友会終身幹事として活躍されています。忙しい合間に一昨年は 3 冊の本を出版され、昨年だけでも全国で 80 数回の講演をこなされました。今年元旦の日本共産党志位委員長との響きあい対談は政界・財界・国民各層に大きな話題を呼びました。品川さんは「資本主義の質が問われる時代」「資本主義のシステムも行き着くところまで来ている」「新しい社会主義ということを考えざるをえなくなる」といわれていますが、今日の世界経済の行き詰まりをズバリ指摘されています。単に現状を指摘するだけではなく今、新しい経済の仕組みやルールをどう作るかという執筆活動に入っておられるそうです。

品川さんは「9 条の旗はボロボロだが、国民は旗竿をしっかり握っている。9 条を守りきれば、世界史が変わる」と強調されますが、どうやら現在、日本史と世界史は変わり始めた時代に突入したといえるのかもしれない。

先日、野口事務局長と国際開発センターを訪問し、思いのたけを語っていただきたいとお願いました。品川さんは「私を革新懇の運動に引きずり込んだのは君たちだ」といわれますが、私たちにとっては貴重な顧問・相談役です。記念総会にふさわしいお話を聞かせていただけたと思います。

それでは、品川さんよろしくお願いたします。

以上